

## 阿蘇中岳火口が3年半ぶりに見学再開！ ～今だから体験できる阿蘇がここにある～

### 「阿蘇中岳火口」見学とは

阿蘇五岳の中で現在も活発に火山活動を続ける「中岳」。エメラルドグリーンの湯だまりが特徴的な第1火口はじめ7つの火口からなる複合火山です。そのスケールは周囲4km、深さ150mにも及びます。現在活動しているのは第1火口のみですが、1923年から1930年は第4火口が活動の中心で、1932年に再び第1火口に移動しています。

色鮮やかな地層を持つ第3～第7火口の構造は、第1火口から遊歩道を使ってその様相を見ることが出来ます。また、その隣には数千年前に形成された火口原（砂漠状の砂礫地）「砂千里ヶ浜」が広がり、7つの火口群と合わせてダイナミックな地球の営みを体感することができます。



中岳第1火口



復旧した安全柵（第1火口）

### これからの火口見学の見どころ

世界広しといえども車で火口近くまで行け、老若男女が気軽に火口を覗き見ることができるのは中岳だけ。第1火口は直径400m。シャープな火口形が特徴で、湯だまりの規模、エメラルドグリーンの美しさともに世界に誇ります。また、すぐ近くに旧火口群（第4火口は明治時代まで活動）があり7つの火口を一度に見ることができます。第3～7火口跡では日本のグランドキャニオンと呼ばれる火口壁（地層）を見ることができます。



遊歩道から見る第4～7火口跡の地層

また、映画などのロケ地としてもよく利用されている「砂千里ヶ浜」はまっすぐ伸びた遊歩道を使って見学でき、火山荒原に僅かに生育する植物も観ることができます。

Dゾーン展望所からは360度の大パノラマが望まれ、平成28年10月8日の噴火で全壊した山上ロープウェー駅舎の様も見えます（解体までの期間）。他にも過去をしのぐ巨大噴石が現れており、約34t（縦3m×横3m×縦1.5m）もの噴石が火口淵まで吹上げられていることに、今回の噴火のすさまじさが伺えます。



火山灰でさらに砂漠状が深まった現在の「砂千里ヶ浜」



砂千里ヶ浜の遊歩道を上ると南阿蘇方面の山々の眺望が開く。写真は上った先のエリア

平成 28 年の噴火は昭和 55 年の噴火から 36 年ぶりの爆発的噴火で、火口周辺施設は退避壕以外は全損に近い被害となりました。現在も環境省と阿蘇市で復旧工事を進めています。全体的な復旧には時間を要しますが、至る所に見られる噴火の痕跡は、活きている火山の証であり、記録に残る噴火史の一つとして皆さまの目に焼き付けていただけたらと思います。火山からすれば今回の噴火もクシャミをしたくらいなのかもしれませんが、今はスッキリしたかのようにエメラルドグリーンの湯だまりを輝かせ、噴煙を高く立ち昇らせています。



黄色の枠の噴石がH28年の噴火で最も大きな噴石（34t）。手前が昭和8年の噴石ですが、それよりはるかに大きい噴石です。見学エリアから見えます。



H28年の噴火で、見学エリア内に落ちた噴石で最も大きな噴石。触れられるよう撤去せずに残しています。



Dゾーンにある展望所。一階は退避壕として利用。2階が展望フロア。仮復旧なので階段等に注意。通路、安全柵は復旧済み。

### 中岳火口と人々の歴史

隋書「倭国伝」に阿蘇山の記載があります。古くから国家的に重視されてきた火山で、火口を「神霊池」と見立てて信仰してきた阿蘇神社の「ご神体」としても知られます。

また山岳信仰の場（山伏）としても栄えた史実があり、火口近くに阿蘇山上神社と西巖殿寺奥之院、神仏が隣接する珍しい光景も今なお観ることができます。